

平成27年度新規漁業就労者調査

牧野清人

平成27年4月から28年3月までの新規漁業就労者について、県内各漁協の協力を得て調査を行った。調査内容は新規就労者の年齢、性別、業態、正組合員、准組合員の別であった。また、水産庁漁政部から依頼を受けている新規就業者数調査（65歳未満を対象）に関連し、漁業従業前の状況や居住地、就業の形態についてもとりまとめた。さらに組合脱退者についても年代、事由について調査を行いとりまとめた。

平成27年度における新規就労者は160名で、159名が男性、1名が女性であった。年代をみると、10代の参入者は5名、20代が31名、30代が41名、40代が36名、50代が23名、60代以上が22名と、全体としては20代～40代の就業者が65%以上となったが、40～50代もそれぞれ20名以上という結果となった（図1）。

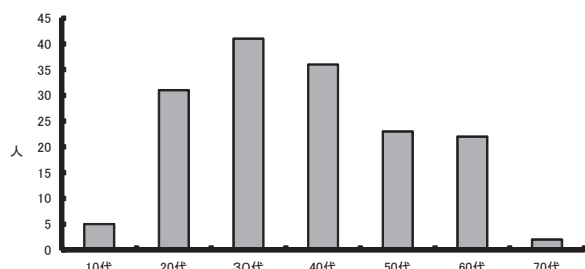


図1. 年代別参入漁業者数

就業者の内、漁家子弟よりもそれ以外が倍近い数となり、就業形態は双方とも独立経営が雇用を上回る結果となった（図2）。

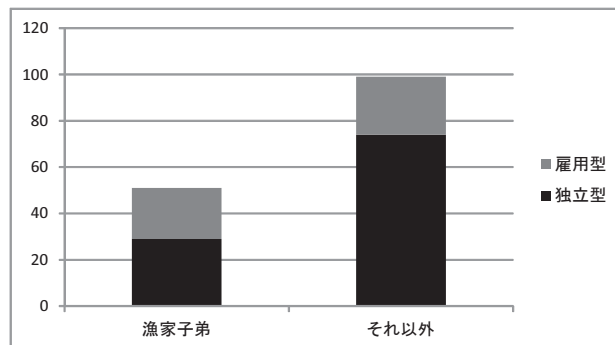


図2. 就業形態(65歳未満)

就業前の状況は、漁業以外の仕事が65歳未満の就業者の内67.5%の102名、一方で学生が7名、その内水産関係の学校が1名であった。

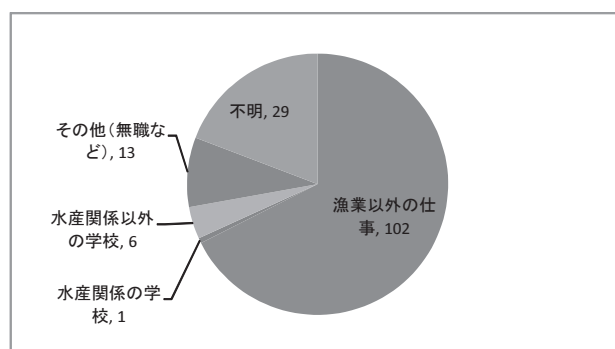


図3. 就業前の状況(65歳未満)

就業前の居住地は65歳未満の就業者の内、同一市町村を含む沖縄県内が全体の80%以上であり、県外から移住して就業した者は20%未満であった。

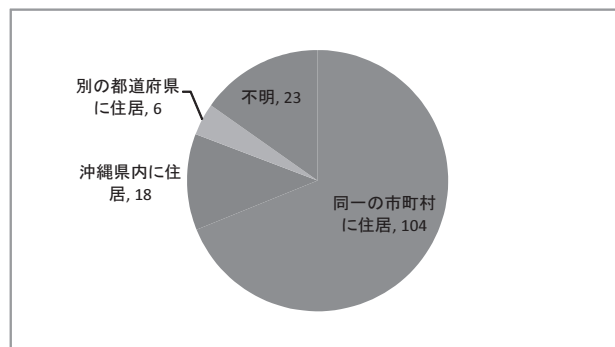


図4. 就業前の居住地(65歳未満)

新規就労者の中で、正組合員は21名、准組合員は76名、その他が63名であった。その後は組合事務局によると、組合員の資格は有しないが、加入申請を行っており、員外組合員として認可され、今後水揚げの状況によって組合員資格審査を受け、正組合員若しくは准組合員になる予定とのことであった(図5)。

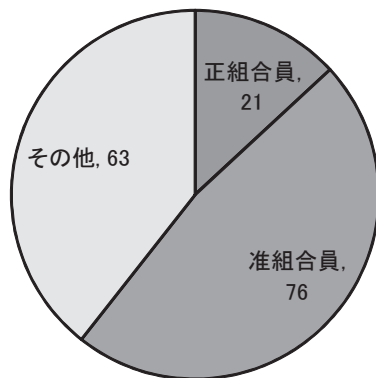


図5. 参入者における組合員資格別割合

新規就労者の漁業種類は複数の業態を行う漁業者が40名であった。各漁業種類毎の従事者数をみると曳き縄一本釣りを開始している漁業者が63名と最も多く、次いで素潜り漁が40名、モズク養殖が24名、潜水器が17名の順で多い結果となった。これは過去の調査と比較しても同様な割合となっている。曳き縄一本釣りについてはベテランの漁業者の乗り子として乗船するケースが多いこと、素潜り漁は漁業を開始するのに船舶や機器類、漁具等の出費が少なく、比較的簡単に行えることが理由と考えられる(図6)。

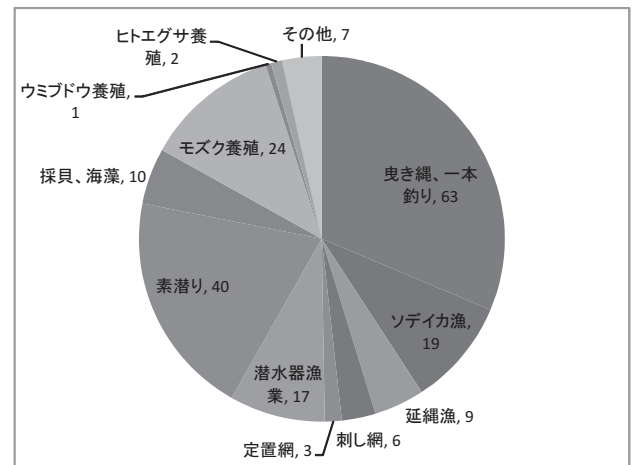


図6. 新規参入者の業態別割合

各漁協ごとの新規就労者数をみると、八重山漁協が23名と最も多く、次いで今帰仁漁協が12名、それ以外の漁協ではすべて10名以下であった。八重山漁協は石垣島に所在するが、地元出身者の他にも県外(島外)からの加入者も多く、主に潜水漁業および曳き縄、一本釣り等の漁船漁業への就業が多い。八重山漁協側の話によると、組合加入の際に、島内の漁業集落に加入することを斡旋しているとのことであった。また、漁協内に青年部の他、パヤオや集魚灯、養殖等、業態別の部会が組織されていることから、集落や各部会におけるグループ活動を通じ、技術を習得しやすい環境にあることも多くが加入している要因の一つと思われる(図7)。

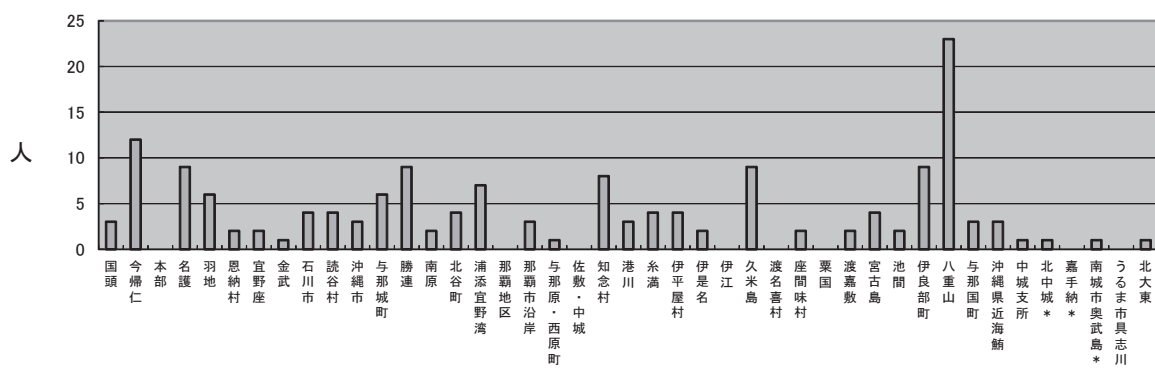


図7. 漁協別新規参入者数

平成27年度における漁協の脱退者は144名で、新規就労者が脱退者を16名上回る結果となった。脱退者の内訳は任意脱退者が34名、組合員資格の喪失が27名、死亡による脱退者が40名、病気・高齢による脱退者が33名、自ら漁業を断念したものが34名であった（図8）。これを年代別でみると、20代～50代までは合計でも27名であったが、60代以上が117名となり、全体の81%を占めた。また、本調査結果から、一部の漁業者は90代まで漁業を継続していることもわかる（図9）。

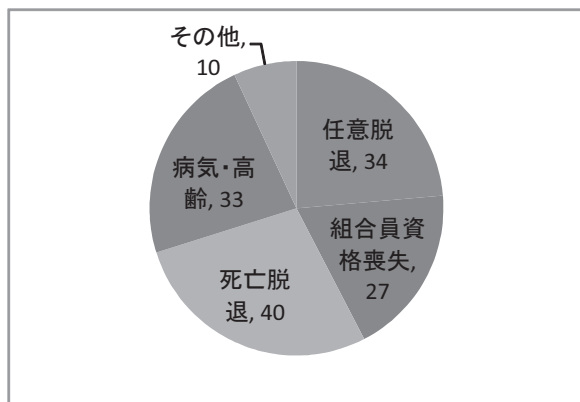


図8. 脱退者数（事由別）

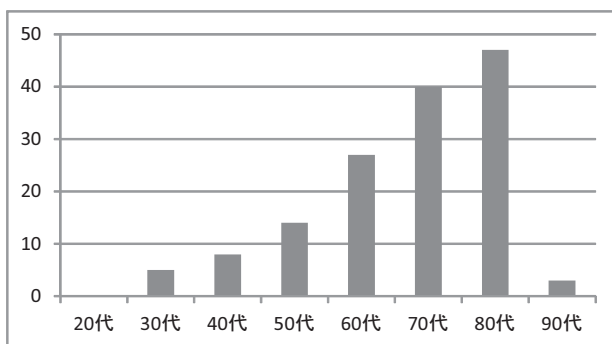


図9. 脱退者数（年代別）

死亡による脱退者について年代別にみると、60代以上が全体の85%を占めている（図10）。平成27年度における操業時の死亡事故の事例はきわめて少ないことと、70代～90代の死亡が全体の60%以上であることから、死亡の主な原因としては、高齢であったことが考えられる。

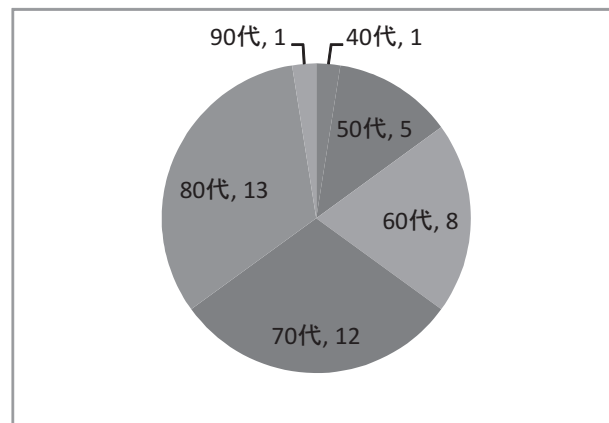


図10. 年代別死亡脱退者数

平成24年からの就業者の推移をみると、例年40代以下の割合が60%以上である（図11）。一方、脱退者をみると60代以上が70%以上となっている（図12）ことから、漁業者の世代交代が進んでいるものと考えられる。多くの若い漁業者の加入が今後の漁業活性化に繋がることを期待したい。

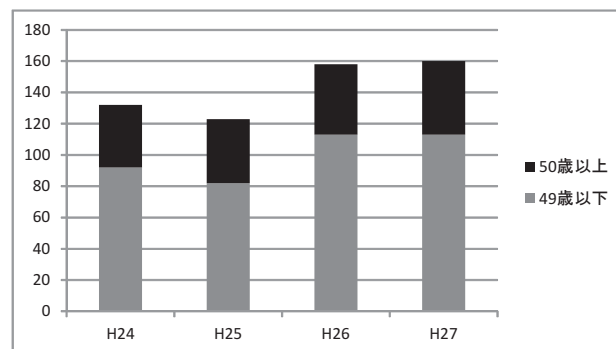


図11. 年代別就業者数の推移

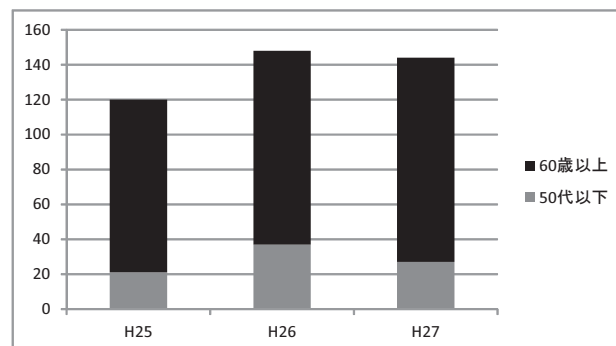


図12. 年代別脱退者数の推移